

その他の検討

○科学技術・イノベーションに関するスタディグループ(SG) 報告書 概要

本SGの目的・趣旨

海洋政策を推進する上で重要な基盤である海洋科学技術について、海洋をとりまく環境の変化も踏まえながら、科学技術・イノベーションの現状把握と課題の解決に向けて議論

主な検討テーマ

海洋科学技術全般や水産業、洋上風力発電などの海洋産業に関する技術的課題について

まとめ

(1) 科学技術政策(海洋分野)の方向性

- ・海洋科学技術は、我が国の経済・社会の発展、地球規模課題への対応等に貢献するもの
- ・科学技術が、新たな産業ニーズや社会問題の解決などに対応していくことが期待されており、海洋の調査・観測等により収集される海洋のデータを、ニーズ等に合うように有用な情報として提供していくこと等が重要

(2) 海洋産業の発展に必要な技術開発

- ・海洋産業の発展には、その基盤となる科学技術が不可欠
- ・産業化が進みつつある着床式洋上風力発電については事業環境の整備等が必要である一方、今後導入拡大が期待される浮体式洋上風力発電については、発電コストの削減に向けた技術開発および産学官の協調等が重要

○海洋保護区のさらなる拡大と管理のあり方に関する スタディグループ(SG)報告書 概要

本SGの目的・趣旨

海洋の生物多様性保護等の手段として各国が「海洋保護区」を重視、大規模な保護区の設定が加速。我が国でも、愛知目標10%の達成に向け「沖合海底自然環境保全地域」制度を新設し、沖合域海洋保護区の設定作業が進められているところ、愛知目標達成後の海洋保護区の更なる拡大と質的充実に向けた課題と方策を整理、議論

主な検討テーマ

- ・愛知目標10%達成後における海洋保護区のさらなる拡大に向けた課題
- ・利用・開発と調和した海洋保護区拡充の可能性
- ・海洋保護区の保全・管理を担う組織の抽出とその課題ならびに公的支援のあり方

まとめ

(1) 我が国の海洋保護区の面的拡大と質的充実に向けた課題

- ・国際的な目標を受けた海洋保護区の拡充は、国際的な課題と位置づけ、国際的な考え方と整合性を確保した政策とすることが重要
- ・海洋保護区政策は、海洋天然資源の開発・利用とのバランス及びモニタリング等による海洋生態系の保全状況の評価が重要

(2) 日本型海洋保護区に対する国際的な支持獲得

- ・我が国の海洋保護区は、人間が海の生態系の一部として共存する「人と海との関わり」を前提にした取組であることが大きな特徴
- ・多種多様な開発・利用活動も海洋保護区を始めとする環境保全に配慮することが重要で、我が国ならではの総合的海洋政策として、国際的に発信していくことが重要